

校内研修用指導案（社会科）

令和4年7月1日（金）3時間目

1. 単元構成・計画

教科名	社会科	学年	3年	時期	6～7月	
単元名	第7章 現代の日本と世界 1節 戦後日本の発展と国際社会					
目 標	知識及び技能	冷戦、日本の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを基に第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解できる。				
	知識及び技能	高度経済成長、国際社会との関わりなどを基に、日本の経済や科学技術の発展によって、国民の生活が向上し、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことを理解できる。				
	思考力、判断力、表現力等	現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現することができる。				
	思考力、判断力、表現力等	現代の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現することができる。				
	思考力、判断力、表現力等	歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。				
	学びに向かう力、人間性等	現代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする取り組みができる。				
評 価	評価の観点	評価規準		評価材料		
	知識・技能	冷戦、日本の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを基に第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解している。		○単元末の小テスト ●授業前のCBT		
	知識・技能	高度経済成長、国際社会との関わりなどを基に、日本の経済や科学技術の発展によって、国民の生活が向上し、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことを理解している。		※○評定に用いる評価 ※●学習改善につなげる評価		
	思考・判断・表現	現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。		○授業後のフォーム		
	思考・判断・表現	現代の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。				
	思考・判断・表現	歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現している。				
	主体的に学習に取り組む態度	現代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題や解決に向けた方法を主体的に追究している。		○単元末のレポート		
指導計画				評価計画		
時数	指導内容			知	思	主
1	敗戦直後のGHQ占領下の日本の状況についての講義 単元を貫く学習課題「日本が立ち直ったのはいつと言えるか」の予想			●		○
2	GHQによる占領政策の内容について			●	○	
3	冷戦の構造と東アジアおよび日本への影響について			●	○	
4	占領政策の転換と日本の国際社会復帰について			●	○	
5	緊張緩和と日本の外交政策の変化について			●	○	
6(本)	高度経済成長期における国民生活の変化について			●	○	
7	戦後日本の文化・マスメディアの発展について			●	○	
8	単元を貫く学習課題「日本が立ち直ったのはいつと言えるか」に対する、個人の考えについての小テストとレポート作成			○		○

## 2. 本單元におけるC B T・Google フォームの活用場面について

1	授業開始時の5分間に前時の内容にかかわるC B Tを実施する。生徒の回答状況に応じ、前回学習内容の振り返りや補足の解説を行う。(即時性・学習改善につなげる評価)
2	授業終了時に、単元を貫く学習課題に対する、その日の学習内容をGoogle フォームで送信、教フィードバックを行う。生徒には単元のワークシート(Google ドキュメント)を配布し、自分の入力内容をコピー&ペーストで蓄積させている。(記録の保持蓄積・評定に用いる評価)

## 3. 「7-1-6 日本の高度経済成長」の本時案

(1) 本時の目標		
知識及び技能 ※前時学習内容	冷戦中の世界の動きの中での、日本と国際社会との関わりやその変化について、理解できる。	
知識及び技能 ※次時冒頭で実施	高度経済成長期に、日本の国民生活の質および国際的な地位の向上に関わる出来事、発展に伴うが見られたことを理解できる。	
思考・判断・表現	高度経済成長期の諸事象について、日本の立ち直りにどのような影響を与えたか、多面的・多角的に考察することができる。	
(2) 学習の展開		
学習活動	教師の働きかけ	指導上の留意点 ◇評価の方法
1. 前時の復習(C B T 5分) 【個別最適な学び】の場面	1. 生徒の回答状況を把握し、補足説明などを行う	
2. 「高度経済成長」の範囲を全体で確認	2. スライド資料を中心に、高度経済成長の時期について共通理解を図る。	
<b>本時の課題：高度経済成長期の出来事は、どのように日本の立ち直りに関わっているだろうか</b>		
3. 高度経済成長期の出来事について、「良かった点」と「悪かった点」に個人のワークシートに分類する。	3. 主な出来事はスライド資料に掲載。期間指導では、出来事の「分類」「視点」「理由」に注目し、助言を与える。	※本單元において 設定した視点 「政治」「経済」 「外交」「国土」 「生活・文化」 ◇Google スライド(グ)
4. 分類した内容をもとに、「ベスト」と「ワースト」をグループで話し合いスライドに記載する。 【協働的な学び】の場面	4. 出来事と理由を、他者が読んでわかるよう、簡潔に記載させる。	
5. 本時および単元の学習課題に関わる自分の考えをワークシートに整理し、グループ内で意見を交流する。	5. 立ち直りに関わるか否かの判断および、その理由を本時の学習内容および自他のグループの考えを参考にし記載させる。	
6. ワークシート内容をもとに、今日の学習課題に対する自分の考えをフォームに送信する。(～次の時間まで)		◇Google フォーム(個)
(3) 学習改善につなげる評価と改善の手だて(導入時のC B T)		
知識及び技能 ※前時内容・本時実施	C (手だて)	Google フォームのフィードバック機能を用い、冷戦緩和と日本の外交関係に関わるスライドを参照するよう促す。 実施者全体の正答率を踏まえ、学級全体に対する補足や解説を行う。
知識及び技能 ※本時内容・次時実施	C (手だて)	Google フォームのフィードバック機能を用いて、高度経済成長期の出来事に関するスライドを参照するよう促す。 実施者全体の正答率を踏まえ、学級全体に対する補足や解説を行う。

(4) 評定に用いる評価と改善の手だて (本時の学習内容に対するまとめ)

思考・判断・表現	A	高度経済成長期の諸事象について、日本の立ち直りにどのような影響を与えたか、複数の視点や立場を踏まえて考察し、まとめることができる。
	B	高度経済成長期の諸事象について、日本の立ち直りにどのような影響を与えたか、単一の視点や立場から考察し、まとめることができる。
	C (手だて)	取り上げるべき諸事象について例示したり、それぞれが単元開始時に示した視点のどれとの関わりが深いかを確認するよう助言を行う。(口頭またはフードバックコメント)